



インターネットでの情報提供	
提供予定日	8月21日(水)

平成25年8月20日(火) 県政記者クラブ配布資料			
担当課	担当係	担当	電話番号
中山間農業研究所	試験研究部	宮本 善秋	0577-73-2029
研究開発課	産学官連携係	足立 純一	(直通)058-272-8096 (内線)2487

岐阜県初のモモ新品種「飛驒おとめ」が誕生

県中山間農業研究所では、本県初のモモの新品種の育成に成功しました。今回育成した「飛驒おとめ」は、県内産地の主力品種である「白鳳」と「昭和^{はくほう}白桃」の端境期に収穫できるため、その時期のモモの品薄状態を解消できます。

また、県内初のモモのオリジナル品種であり、本県のモモのブランド化に貢献することが期待されます。

記

1 新品種の育成経過

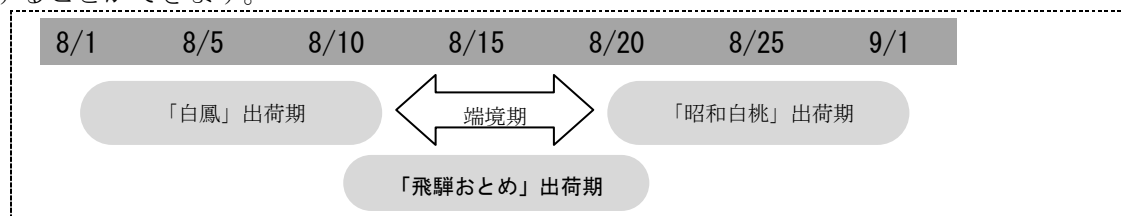
- 平成10年 「川中島白桃」に「やまなし白鳳」を交配
- 平成11年 播種(387種子)
- 平成15年 一次選抜で6個体に絞り込む
- 平成18年 二次選抜で1個体に絞り込み、系統名を「飛系モモ1号」として、飛驒地域で現地試験を開始
- 平成23年 有望と判断し育成を完了
- 平成24年 品種登録出願(第27603号)
- 平成25年 飛驒地域を中心に作付け開始



「飛驒おとめ」

2 新品種の特徴

- ・「白鳳」と「昭和^{はくほう}白桃」の間の端境期に収穫でき、需要が増大するお盆時期の品薄状態を解消することができます。



- ・果実が300g以上と大きく果形が整い、着色も良好で、果実の外観が非常に優れています。
- ・果実糖度が16.4%と高く、甘味が非常に強くて、食味は良好です。
- ・気象条件によって多発する核割れ果・ミツ症果・生理落果などの発生が少ないため、果樹農家にとっても生産しやすい品種です。

3 新品種の普及見込み

- ・飛驒地域を中心に5年後には5ha、将来的には20ha程度の普及を見込んでいます。